

地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの 改定について

内閣府特命担当大臣

(科学技術政策)

令和 5 年 2 月 8 日



地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定

- 日本全体の研究力を向上させるためには、大学ファンドによる限られたトップレベルの研究大学への支援と同時に、地域の中核となる大学や特定分野に強みを持つ大学など、**実力と意欲を持つ多様な大学の機能を強化**していくことが重要。
- こうした背景の下、実力と意欲を持つ大学が、**自身の強みや特色を最大限発揮し、成長の駆動力となってグローバル課題の解決や社会変革を牽引**することを目指し、政府全体の支援策を「**地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ**」としてとりまとめ、**令和4年2月の総合科学技術・イノベーション会議にて決定**。
- **関係府省が連携し、当該パッケージに基づいた支援を着実に推進**するとともに、大学ファンドの検討状況等を踏まえ、日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成に向けて、**大学ファンド支援対象大学と地域中核・特色ある研究大学とが相乗的・相補的な連携を行い、共に発展するスキームの構築**に資するパッケージ内容へと、**さらに発展・進化させていくため、令和5年2月8日の総合科学技術・イノベーション会議にて、改定**。

量的拡大

- ◆ 令和4年度第2次補正予算額
2,110億円 + 1,048億円の内数
この他、関連予算として**418億円**

- ◆ 令和5年度政府予算案
442億円
この他、関連予算として**720億円**

（令和4年度予算額
462億円
この他、関連予算として**557億円**）

※関連予算とは、大学が参画することも可能な事業の予算であり、その規模については、内数のものも総額を計上

質的拡充

- ◆ 総合振興パッケージで**目指す大学像を明確化**するとともに、「今後に向けて」を踏まえて「**大学自身の取組の強化**」に向けた**具体策を充実**

総合振興パッケージ（令和4年2月決定）
～今後に向けて～（抄）

- ・ 本パッケージについては、文部科学省※で検討の緒に就いた、**大学の強みや特色を伸ばす取組強化の具体化・実質化等に向けた議論の動向**も踏まえつつ、今後、改定を行っていく予定（※ 科学技術・学術審議会大学研究力強化委員会）。

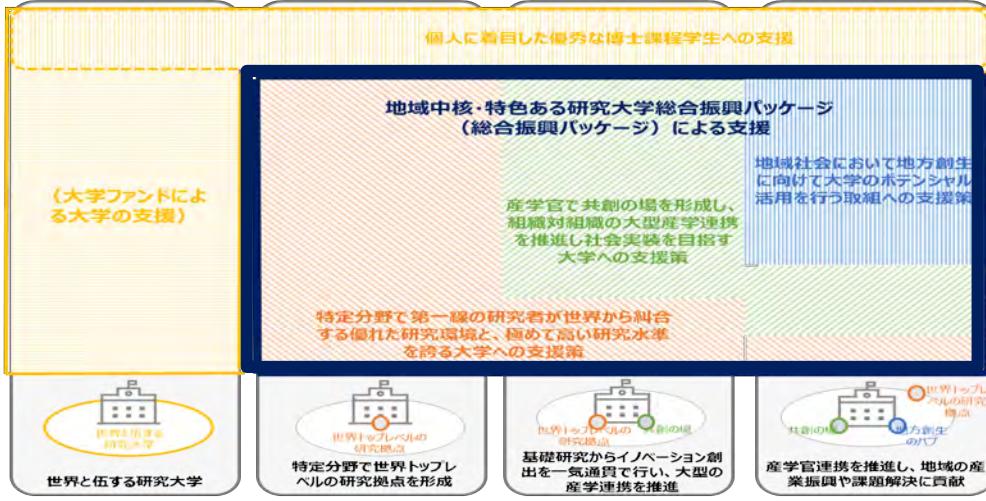
- ◆ 研究者が研究に専念できる時間確保に向けた専門職人材の量・質の確保や、研究DXや設備・機器等の研究インフラ管理・利活用など、**大学の研究マネジメントに着目した政策との連動**
- ◆ 総合振興パッケージに含まれる**各府省の事業間の連携強化**や、「**関連事業マップ**」の更なる充実（「ヘルスケア・健康づくり」領域を追加）

地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ（案）

令和5年2月8日改定 総合科学技術・イノベーション会議

□ 目指す大学像

研究活動を核とした大学に求められる機能について、自らのミッションや特色に応じたポートフォリオを描きつつ戦略的に強化し、大学の力を向上させることで、新たな価値創造の源泉となる「知」と「人材」を創出、輩出し続ける大学



□ 大学に求められる機能

保持・強化することが期待される、**研究活動に係る機能**と、それに連動した**高度人材育成に係る機能**とを、「卓越性」と「地域・社会貢献」の観点から、3つの要素に分解

※象限毎に機能を分類したもので、それぞれの象限に優劣はない

世界的卓越性を追求
世界的卓越性は副次的



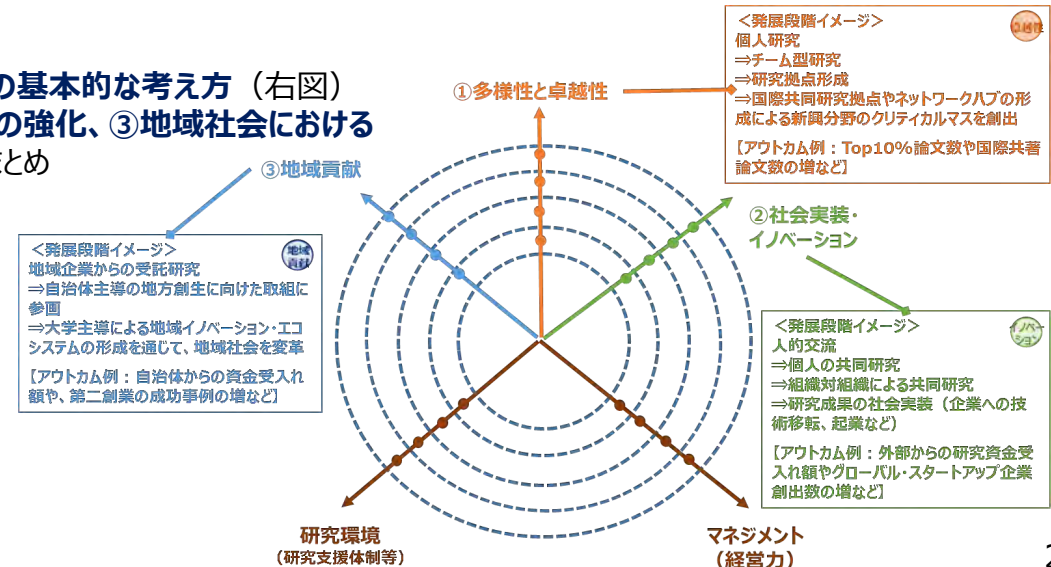
- 卓越性**
 - 【研究】学術研究の多様性と卓越性を発展させる機能
 - 【人材】多様な専攻の博士課程を通じて、将来アカデミアを含めて社会で広く活躍し次代を切り拓く人材を養成する機能
- イノベーション**
 - 【研究】地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能
 - 【人材】イノベーション創出を担う人材を養成する機能
- 地域・社会貢献**
 - 【研究】地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能
 - 【人材】地域の中核となる知の拠点として、地域ニーズに対応した人材養成機能

□ 総合振興パッケージの狙い（目的）

求められる『機能』の観点から大学自身の立ち位置を振り返る「羅針盤」の基本的な考え方（右図）を示しつつ、各府省の事業等を①大学自身の取組の強化、②繋ぐ仕組みの強化、③地域社会における大学の活躍の促進の3段階に整理して、1つの政策パッケージとしてとりまとめ

大学による、自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略に基づく、**選択的かつ、発展段階に応じた機能強化を加速**

地域の中核大学等が**地域社会の変革**のみならず、我が国の**産業競争力強化やグローバル課題の解決**に大きく貢献



地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ (総合振興パッケージ)

令和5年度政府予算案 442億円
令和4年度第2次補正予算額 2,110億円+1,048億円の内数
令和4年度予算額 462億円
(その他、関連予算※として、令和5年度政府予算案 720億円(令和4年度予算額 557億円))
※大学が参画することも可能な事業(予算額については、内数の予算も含めて集計)

- 地域の中核大学や特定分野の強みを持つ大学が、“特色ある強み”を十分に発揮し、社会変革を牽引する取組を強力に支援
- 実力と意欲を持つ大学の個々の力を強化するのみならず、先進的な地域間の連携促進や、社会実装を加速する制度改革などと併せて、政府が総力を挙げてサポート
- 地域社会の変革のみならず、我が国の産業競争力強化やグローバル課題の解決にも大きく貢献

①大学自身の取組の強化(442億円)

※青字が予算事業による取組

卓越性

イノベーション

- 研究の多様性・卓越性の発展機能の強化に向けて、特色化を目指した魅力ある拠点形成を支援
- 基盤的経費や競争的研究費による、大学の強みや特色を伸ばす事業間の連携や大学改革と連動した研究環境改善を推進
- イノベーション創出に資する機能の強化に向けて、産学官連携を通じた社会課題解決(産学官連携活動や、スタートアップ創出)を支援
- 研究をしやすい環境構築に向けた改善や、大学のマネジメント体制の改革を通じた、「研究に専念する時間」の確保に向けた政策との連動
- 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、URAや技術職員等専門職人材の配置や活動の支援等による研究環境の高度化等を通じた国際競争力強化や、経営リソースの拡張・戦略的活用を図り、研究活動を通じて大学の力を抜本的に強化

②繋ぐ仕組みの強化

イノベーション

地域貢献

- 地域の産学官ネットワークの連携強化
 - 地域内に作られている産学官ネットワークを整理し、活用を促進
 - 地域内・地域横断の組織を繋ぐキーパーソン同士の繋がりを広げ、地域のニーズ発見や課題共有を促進
- スマートシティ、スタートアップ・エコシステム拠点都市、地域バイオコミュニティなどの座組活用によるデジタル田園都市国家構想の実現への貢献
- 大学の知の活用による新産業・雇用創出や地域課題解決に向け、大学と地域社会を繋ぐ(社会実装を担う)観点でロールモデルとなるような繋ぐ人材・組織の表彰・発信

③地域社会における大学の活躍の促進(720億円)

地域貢献

- 各府省が連携し、大学の知を活用してイノベーションによる新産業・雇用創出や、地域課題解決を先導する取組を一体的に支援(地域課題解決をリードする機能の強化)
 - イノベーションの重要政策課題や地域課題ごとに事業マップを整理※して、社会変革までの道のりを可視化
 - ポテンシャルの高い取組について、情報共有を図りつつ伴走支援
- 地域課題解決をリードする機能の強化に向けて、大学と自治体との連携強化
 - 地域等(自治体・社会実装を担う官庁)からの資金を受け入れ、地域貢献を行う大学に対してインセンティブを付与
 - 大学が持つ様々なポテンシャルに対する理解を促進し、自治体を巻き込む仕掛け
- 大学への特例措置や特区の活用促進

※MaaS・自動運転、スマート農業、資源循環、地域脱炭素、防災・減災、ヘルスケア・健康づくり、スマートシティ、スタートアップエコシステム拠点都市、地域バイオコミュニティごとに、各府省の事業整理

地域の中核大学や特定分野の強みを持つ大学の機能を強化し、成長の駆動力へと転換
日本の産業力強化やグローバル課題解決にも貢献するような大学の実現へ

(参考) 総合振興パッケージによる支援全体像

- 大学が、自身の強みや特色を伸ばす戦略的経営を展開することで、ポテンシャルを抜本的に強化（**大学が変わる**）
- 大学が拡張されたポテンシャルを社会との協働により最大限発揮し、主体的に社会貢献に取り組むことで、社会を変革（**社会が変わる**）

① 大学自身の取組の強化

「大学自身の取組の強化」の主な具体策

○ 魅力ある拠点形成による大学の特色化

- ✓ 強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下、研究活動の国際展開や社会実装の加速等を実現できる環境整備を支援する、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」を基金により創設

○ 大学の研究環境（基盤）やマネジメントの強化

- ✓ 「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」の提示により、研究基盤を全学的な研究マネジメントの一環として位置づけ、戦略的な運営を促進

○ 組織間連携・分野融合による研究力の底上げ

- ✓ 国際卓越研究大学や大学共同利用機関等がハブとなり、人材の流動性向上や共同研究の促進、リソースの共有等を図り、我が国全体の研究力向上を牽引する研究システムを構築

地域・社会・ステークホルダー
 ～地域の社会経済の発展に留まらず、グローバル課題の解決や国内の構造改革・社会変革を牽引～

先端的な取組に
ドライブをかける
支援の仕組み

社会との協働・対話を通じ、
知の価値に対する投資を呼び込み

人文・社会科学も含めたあらゆる
知識を総合的に活用（総合知）

自治体との連携強化
府省間の事業連携による
一体的支援

制度改革(特区活用)

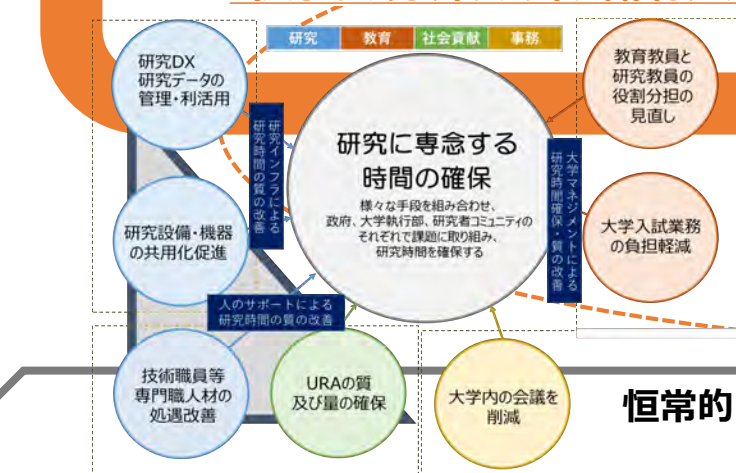
地域産学官ネットワークの
連携強化や座組活用

繋ぐ人材・組織の
表彰・発信

③ 地域社会に
おける大学の
活躍の促進

② 繋ぐ仕組み
の強化

総合振興パッケージを通じ、大学の戦略的経営を後押しすることで、
大学現場における研究に専念できる時間を確保
（大学の研究マネジメントに着目した政策との連動）



大学による
強みや特色を伸ばす戦略的経営の展開
（大学のマネジメント改革を促進）

機能強化・拡張

恒常的に大学の強みや特色を伸ばすための体制づくり
（基盤的な活動を支援）